

成人看護学実習Ⅱ 学内及びリモート実習課題(8月17日分)

以下の事例を読み、

1. 胃がんの疫学・胃がんの分類・胃がんの症状・胃がんの術式について書きなさい。
2. 事例中の検査データその他下線部について意味を調べ、正常か、異常か、何を意味するかなど書きなさい。
3. 次にあげる胃切除術の術後合併症の原因と看護についてレポートに記述しなさい。

縫合不全

ダンピング症候群

貧血

4. <術後の心理・社会的問題と看護>

Eさんは、術前に「仕事が気になるので早く職場に戻りたい」と話しており、回復のためにも食事をとろうとする反面、食事のたびに腸管が刺激され、腹部症状が出現することで食事に対する苦痛を感じる可能性があった。また、仕事柄外食することが多く、早食いの習慣があったということから、食事形態が段階的に進んでいくことへの苛立ちや、退院後の食事に関する不安が生じる可能性があった。

これらの状況に対して、どのような看護を行うか記入しなさい。(レポート用紙 A4 半分程度)

<紙上事例>

入院～術前

1) 入院時の情報

・患者は E さん、54歳の男性、大手メーカーの営業部門に勤務している。毎年受けている会社の健康診断で貧血を指摘され(Hb 10.2g/dL)、上部消化管内視鏡検査の結果、胃体部小彎に直径3cm×3cmの陥没病変が発見された。細胞診で腺がん Group 5 と診断され、手術目的で入院した

・入院時の主訴は、食後の心窩部鈍痛と空腹時腹部違和感であり、入院前の半年間に体重が3kg減少している。仕事柄外食が多く、早食いである。アルコールは付き合い程度に摂取、タバコは1日40本(喫煙歴30年余)、これまで大きな既往症はない。専業主婦の妻(53歳)と大学生の娘、高校生の息子の4人家族である。

2) 入院時のバイタルサインと検査データ

バイタルサイン: 体温36.5℃、脈拍76回/分、呼吸18回/分、血圧142/72mmHg。

血液検査: WBC 6,500/μL、RBC 390万/μL、Hb10.2g/dL、Ht 35.8%、Plt13万/μL、
TP 6.4g/dL、Alb 3.9g/dL、Na 138mEq/L、K 4.2mEq/L、Cl 97mEq/L、
BUN 15.1mg/dL、Cr 0.8mg/dL、AST 26 IU/L、ALT22 IU/L

動脈血ガス分析: pH 7.45、PaO₂ 86.3mmHg、PaCO₂ 39.7mmHg、HCO₃⁻ 24mEq/L、
SaO₂ 96%

呼吸機能検査: %肺活量: 74%、1秒率: 81%

心電図: 胸部X線・尿検査: 異常なし

体格: 身長165cm、体重74kg、BMI27.2

3) 病気の受け止め方と理解

・医師から「胃の中ほどに3cmくらいのがんがあり、できた場所の関係で胃をすべてとらなければならない。食事には注意が必要だが徐々に普通の生活に戻る。手術後は回復のためにも痛み止めを使ってよく動いたほうが良いので、がんばって動いてほしい」と説明を受けた。Eさんは「がんと聞いたときはショックで眠れなくなった。今はまな板の上の鯉の気分であり、病院の皆さんにお任せするしかないと思っている。仕事が気になるので、早く職場に戻りたい」と話している。

術後(胃全摘術)

1) 手術の概要

- ・術式: 胃全摘術(ルーY法による再建術)、腹部正中切開25cm
- ・麻酔: 全身麻酔(吸入麻酔、静脈麻酔)+硬膜外麻酔
- ・手術時間: 4時間
- ・手術中のIN-OUTバランス: 輸液量 2,900mL、出血量 180g、尿量 765mL
- ・手術所見: 胃体部小彎に3cm大の潰瘍限局型のがん病変(肉眼型分類2型)があり、胃全摘術(ルーY法による再建)を行った。(T2NOPOHOMO、Stage I B)
- ・手術中の一般状態: 挿管時、血圧が一時上昇したが自然に下降し、その後110~130/70~80 mmHgで経過した。体温、脈拍、心電図上とくに問題となる所見はみられなかった
- ・挿入されたチューブ類: 左横隔膜下ドレーン、膀胱留置カテーテル、末梢静脈ライン、硬膜外カテーテル

2) 手術終了直後の様子

- ・回復室から病棟への帰室後、呼名に対して応じるが、すぐに入眠する傾向があった。経鼻胃管および左横隔膜下ドレーンから、血性の排液が少量流出していた。手術直後より酸素6L/分を酸素マスクで投与した。

3) 術後の経過

- ・帰室後2時間を過ぎると覚醒し、創部痛を訴えた。硬膜外カテーテルから鎮痛薬を持続的に投与していることを伝え、そのうえで、硬膜外カテーテルに接続されているPCAのボタンを押すと鎮痛薬がまとめて注入されるので押してよいことを伝えた。痛みはPCAでコントロールされている。呼吸は浅く、呼吸音は全肺野で減弱している。

(8月18日分)

- ・記録の最終整理(提出漏れがないように)
- ・**最終評価**をきちんと記入(ボールペンで)し、提出記録の綴り順にまとめる。提出忘れのないように。
- ・レポート「実習のまとめ(生命の危機的状況にある対象の看護実践とは、を含む)」(レポート用紙1枚以上)
- ・技術経験録を持ってくる